

琉球大学学長選考・監察会議公示（学長候補者の公示）

令和6年10月25日

琉球大学学長選考・監察会議



琉球大学学長選考・監察会議は、「国立大学法人琉球大学学長の選考等に関する規則」第7条の規定に基づき、学長候補者の氏名等を次のとおり公示する。

氏 名	生 年 月 日 (満年齢)	最 終 学 歴	学 位	主な略歴	所信書
大屋 祐輔	昭和32年9月19日 (67歳)	九州大学大学院医学研究科修了	医学博士	元琉球大学保健管理センター長 琉球大学病院長 琉球大学理事・副学長	別紙
喜納 育江	昭和42年3月20日 (57歳)	米国ペンシルベニア州立 インディアナ大学	博士・ 英米文学	元琉球大学学長補佐 元琉球大学附属図書館長 琉球大学副理事・副学長	別紙
松下 正之	昭和39年8月14日 (60歳)	香川医科大学大学院医学研究科 (博士課程) 修了	博士(医学)	元琉球大学医学部長 元琉球大学大学院医学研究科長 琉球大学大学院医学研究科 教授	別紙

令和 6 年 1 0 月 2 2 日 所 信 書 1. 琉球大学の運営等に関する所信 第 18 代学長候補として推薦をいただきました、理事・副学長・病院長の 大屋です。 大学を取り巻く社会の急激な変化への対応や国および文部科学省が求める変革への対応など琉球大学として取り組むべき課題が多数あります。西田学長はそれらについて一つ一つ確実に対応を取ってこられました。しかし、まだ対応は緒についたところであり、それを本格化すること、また必要に応じて改善し、さらに推進することが必要と考えます。私はこの 5 年半の間、西田学長の取り組みを身近で見せていただきました。学生への深い愛情、研究へ高いモチベーション、前向きで迅速な行動など、学長のありかたを学ばせていただきました。また、大学病院のガバナンス改革、新型コロナ対策、西普天間キャンパス移転に関わり、チームとして目標を共有し、心をつ一つにして取り組むことの重要性を実感してきました。もし、学長に選任いただきましたら、このような学びや経験を活かし、教職員・学生がワンチームとなって大学を発展させるような運営を行いたいと思います。 —学長企画室の充実 学長企画室を強化し、教育や研究に関する充実はもちろん、法人経営に関しても学長のガバナンスが発揮できる体制を作り経営基盤の強化を行います。 —DX(Digital Transformation)の推進、IR(Institutional Research)機能の強化 教育や研究の質を上げる、業務の効率化、よい戦略の作成のために、DX や IR の推進が必須と考えます。さらに、AI(Artificial Intelligence)や RPA(Robotic Process Automation)の導入を促進します。単純作業を減らし教職員の創造的な力を引き出す体制を作ります。 —私が目指したい学びの場・働く場 職種や職階による垣根がなくコミュニケーションが充実しているオープンな雰囲気のもと、教職員一人一人と組織が一体となり、高度または新たな課題に対して果敢に挑戦することができ、相互に成長を実感できる環境を目指します。そのためにも、ていねいな情報共有、保健・労働衛生の管理、ハラスメント対策、障がい者支援等に、これまで以上にしっかり取り組みます。	2. 琉球大学の中期目標・中期計画、将来構想等基本となる方針に関する所信 琉球大学では中期目標・中期計画を実現するため中期将来ビジョンを策定しています。その中のアクションプランの遂行が中期目標の実現につながります。それらのアクションを教職員が確実に実施できる具体的な支援が重要と考えます。特に力を入れるべきものを下記に記します。 —教育の質の向上 1. DX や IR・データを利用する体制を強化します。 2. 新型コロナで失われた人のつながりによる教育の再構築とリモート教育の融合を推進します。 3. URGCC に基づく教育の内部質保障、また STEAM 教育の推進による DX 時代の人材育成を推進します。 4. リカレント教育、社会人教育、高度な研究成果の地域への提供などを充実します。 —研究の質と量の向上 1. 各研究者の自由を尊重しつつ、URA(University Research Administrator)の支援を強化し質の高い研究を増やします。 2. 研究分野ごとに研究担当理事を補佐する教員を配置し、その分野内の活性化や複数分野の融合的研究の創出を目指します。 3. 地域の課題を解決する研究を推進します(長寿復興、子どもの貧困、首里城再興、Blue Economy、経済対策等)。国立こども真ん中ウェルビーイングセンター設立プロジェクトを応援します。 4. イノベーション創出とスタートアップ支援に努めます。そのために多様性(学生、若手、女性、外国人など)の尊重や沖縄科学技術大学院大学(OIST)との連携を強化します。 —地域連携・国際連携 1. 経済界、産業界、行政との連携をトップセールスで進めます。 2. 産学官連携や技術移転等を進める人材育成やネットワーク形成を強化します。 2. 世界の県系人や県人会を介した国際ネットワークの強化を目指します。 3. 国際交流の推進のために担当人材の養成を行います。 —医療 1. 西普天間の新病院における高度医療の提供を推進します。 2. 優れた医療人の育成により地域医療に貢献します。 —経営・財務 1. 資産の有効活用、外部資金の調達、寄付金の増加等に、学内のみならず民間の力も借り安定的な経営を目指します。 2. 広報活動を強化し、琉球大学の特色をアピールします。 国立大学法人琉球大学学長選考細則第 6 条の規定に基づき提出いたします。また、この様式の内容が公表されても差し支えありません。 令和 6 年 1 0 月 2 2 日 氏 名 大屋 祐輔
---	--

※琉球大学の運営等に関する所信をそれぞれ 8 0 0 字程度で作成してください。

令和 6 年 10 月 22 日

所 信 書

1. 琉球大学の運営等に関する所信

減少し続ける若年人口や財政基盤の縮減など、今日の国立大学法人を取り巻く外部環境は非常に厳しい状況にあります。琉球大学の大学運営も、そうした外的要因の影響を免れることはできません。しかし、RX や SDGs の推進など、地球規模の視野で将来を見据えた現学長の改革を通して、新たな琉球大学像も見えてきました。創立 100 周年に向けた本学の次の四半世紀をさらなる躍進へと導くためには、時代の趨勢を見極めながら大学のあり方やミッションを不断に見直し、時には大胆な改革に挑む必要があります。亜熱帯島嶼の自然環境や特色ある歴史・文化など学術的価値の高い豊かなフィールドを擁する琉球大学が、その魅力とポテンシャルを倍加させることで「次世代に選ばれ、地域に愛され、国内外から期待される大学」となるよう、私は次のような考えのもとに大学運営を行います。

（1）グローバル人材の育成を促す教育の質保証

教育に関する大学の最大の使命は、新たな知の創造を通して未来社会を担う優秀な人材を育成することです。社会に開かれた質の高い教育を提供することによって、地域に根ざしつつ、未来のグローバル社会で活躍できる地球市民の育成を柱とする教育の質保証体制を整えます。

（2）研究の質向上と普及

沖縄という学術的価値の高いフィールドを擁する本学は、根源的な問いを追究する基礎研究や地域課題の解決へ向けた社会実装化に資する応用研究の成果としての豊かな叡智を有しています。社会と共に地域の未来をデザインしていくという本学の役割を果たせるよう、Island Wisdom ともいうべき本学の研究成果を広く国内外に発信し、普及・還元する仕組みを整備します。

（3）互いを尊重する組織づくり

大学は、異なる個性が集い、協働する「コミュニティ」です。互いの人間性を認め、相手を尊重するコミュニケーションの実践によって各人の才能を最大限に発揮できれば、多様性をイノベーションに発展させることができます。多様性の強みを活かすインクルーシブな組織文化の醸成に努めます。

（4）社会との連携の推進

「ランド・グラント大学」である本学は、地域とともに歩み、地域の発展に貢献することをミッションとしています。地域社会及びグローバル社会とのパートナーシップやネットワークを強化し、対話を通して Society 5.0 以降の多種多様な社会における本学のプレゼンスの向上に努めます。

（5）経営体としての大学の機能強化

目まぐるしく変化する昨今の社会において、国立大学法人にも経営体としての機能強化が求められています。学内の運営組織における経営機能を強化し、学外においては他の教育研究機関及び産官との連携を推進することで資源の有効活用を図り、より健全な経営体となるべく改革を進めます。

2. 琉球大学の中期目標・中期計画、将来構想等基本となる方針に関する所信

第 4 期中期目標期間において本学は、「琉球大学の中期将来ビジョン」の実現へ向けたビジョン計画に対する自己点検・評価を進め、法人評価に備えているところです。まずは、第 4 期の 4 年目終了時評価と 6 年目終了時評価において高い評価を得られるよう、取組を着実に進めます。また、令和 11（2029）年度からスタートする第 5 期の評価期間に向け、就任と同時に次に掲げる 8 つの重点施策に着手します。第 5 期開始までにはこれらの取組の成果や社会の動向に鑑み、令和 16（2034）年度までを視野に入れた新たなビジョン計画を策定します。

1）教育のグローバル化と教学マネジメントの推進

海外留学に挑戦する学生をサポートすると共に、留学生を積極的に受け入れ、多様性の豊かなキャンパスでの異文化交流を促進することによって、地球市民の育成に努めます。また、学修者本位の教育と学修成果の見える化を確実に実施し、批判的思考をもって課題の解決に主体的に取り組める人材の育成を実現すべく、教学マネジメントを推進すると共に、学生と大学とのコミュニケーションの深化を図ります。

2）研究の発展及び研究成果の発信、地域への普及

本学の研究活動の活性化を目指した財源確保の戦略として、外部法人「琉球大学イノベーション&ファンディング（仮称）」を新設します。また、引き続き外部資金獲得のための支援に努めて教員の研究力向上を図り、その研究成果を国内外に発信し、地域社会への普及を促進します。こうした産学官連携の新たな取組を通して、地域の未来を地域とともに共創する「地域貢献型大学」の役割を積極的に担い、本学のさらなる躍進へとつなげます。

3）次代へ向けた価値の創造

2030 年を目標達成年とする SDGs は、人類の持続可能な開発に向けて設定された目標であると同時に、本学が教育研究機関として達成に貢献すべき目標です。本学が重視する人類普遍の価値を次代や地域社会に示し、新しい価値創造の拠点であり続けるためにも、SDGs の実現へ向けた全学の取組を加速させます。

4）RX の加速化と親密なコミュニケーションの促進

現学長のリーダーシップで始まった「琉大トランスフォーメーション（RX）推進プロジェクト」を継続し、本学構成員の各種業務の効率化・高度化を進めます。同時に RX の活用により構成員同士の親密なコミュニケーションの活発化を図り、ウェルビーイングを向上させます。その際、相互尊重に基づくコミュニケーションへの理解を促し、ハラスメントのないキャンパスを目指します。

5）広報戦略とグローバル戦略の強化

広報体制の強化は、地域社会に向けた本学のプレゼンスを高め、グローバル社会との連携における戦略の鍵となります。地域ネットワークに加え、本学が有するアジア・太平洋、島嶼地域との学術交流等に強固な国際間ネットワークを築くことで、世界に後れをとらない大学運営を目指します。

6）組織と財政基盤の強化

本学の逼迫した財政基盤を改善するためには、これまでの大学の経営のあり方を見直し、事務組織や教員組織の改編も視野に入れた大胆な改革が必要です。ただし、目的は「数」のスリム化ではなく、構成員個々の能力を部局等の枠を超えて適材適所で生かすという発想に基づく整備です。こうした経営戦略を円滑に進めるためにも「教学」と「経営」の観点から大学の IR 機能をさらに充実させます。

7）地域に開く千原&西普天間の両キャンパスの未来像

千原キャンパスでは、施設運営部を中心に長期的な「キャンパスマスタープラン」を洗練し、大学周辺に住む人々が気軽に訪れて景観を楽しめるなど、100 年先も地域から親しまれるキャンパスを構想していきます。また、令和 7（2025）年 1 月に医学部と大学病院が移転する西普天間キャンパスについても、医療人材育成の場、そして高度先進医療を地域に提供する拠点として、地域から歓迎されるキャンパスにするためのプランを策定します。

8）DE&I（ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン）の実現

ダイバーシティ（多様性）、エクイティ（衡平性）、インクルージョン（包摂性）のいずれもが、現代社会が構成員一人一人にとって生きやすいものであるために、またその結果として社会全体がより良い方向に向かっていくために不可欠な要素です。全ての人の人権を尊重するという SDGs の理念と DE&I という世界基準の価値を構成員と共有し、組織運営に活かすことで、新しい時代の意識を備えた大学へと変革させます。

国立大学法人琉球大学学長選考細則第 6 条の規定に基づき提出いたします。また、この様式の内容が公表されても差し支えありません。

令和 6 年 10 月 22 日

氏名 喜納育江

令和 6 年 1 0 月 2 0 日	
所 信 書	
1. 琉球大学の運営等に関する所信	
琉球大学の使命を果たすべく、教育(知の継承)・研究(知の創造)・社会貢献(知の実践)を3本柱として掲げます。この理念は、大学の根幹を成すものであり、学問の発展と社会の進歩に不可欠な要素であると考えています。	
建学の精神である Land Grant University の理念は、地域社会との密接な結びつきを重視し、実学的な教育と研究を通じて社会に貢献することを謳っています。この崇高な精神を受け継ぎ、琉球大学は沖縄県の発展に寄与する人材育成に全力を注がなければなりません。そして、本学の目指すところは沖縄県に留まりません。グローバル化が進む現代社会において、琉球大学はアジア太平洋地域における知の拠点として、国際的な視野を持つ人材の育成と、世界に通用する研究成果の創出を目指すことも重要です。さらに、社会構造は人工知能に代表される科学技術の急速な進歩、高齢化社会などにより急激に変化しています。沖縄県は地政学的な特徴により、これらの社会構造変化の最前線に位置しています。沖縄県における唯一の総合大学である琉球大学は、この時代の変化を絶好の好機として捉え、時代に求められる大学像を示す大きなチャンスを有していると考えています。	
琉球大学は、沖縄県の豊かな自然と文化、歴史を背景に、多様性を尊重し、創造性を育む環境を提供しなければなりません。本学で学ぶ学生は、グローバルな視点と地域に根ざした知識を兼ね備え、未来社会の課題解決に貢献できる人材として成長していくことが求められます。本学は、この地に根ざしながらも世界を見据え、教育、研究、社会貢献の各分野で卓越した成果を上げることで、アジア太平洋地域における人材育成・文化・科学技術の発展に寄与し、知の拠点となることを目指します。私は、これらの取り組みを実現させるために、本学の教職員・学生とビジョンを共有し、強い意志と実行力を持って琉球大学の運営に臨んでいく所存であります。	
2. 琉球大学の中期目標・中期計画、将来構想等基本となる方針に関する所信	
中期目標・中期計画に基づき、組織整備・社会貢献・人材・経営に関する重点 4 項目を中心とした運営方針を記載します。	
組織整備	1. 大学の基盤である学部・大学院の強化：大学の基盤として不可欠な各学部・各研究科が大学運営予算の減少等の影響により損なわれつつある現状に鑑み、これらの組織の機能強化を最優先課題として位置づけ、学生および教員が安心して修学・教育・研究に専念できる環境整備を推進します。また、多様な知が交流する総合大学として、教職員や学生、そして地域住民や学外研究者、海外からの来学者が快適に過ごせるキャンパスづくりを行います。さらに、教育・研究をサポートする機能的なマネジメント体制を構築し教職員の労働環境を整備します。
社会貢献	2. 広報・情報集取システムの整備：広報活動および学外情報収集のための組織体制を強化します。教育・研究の取り組みや成果を効率的に集約・評価し、即時性を持って学内外に発信するシステムの構築を行います。さらに、本学の Web サイトや SNS の質的向上と発信力を強化し、琉球大学のブランドイメージの確立と普及を目指します。 3. 西普天間キャンパスの整備：医学部長として移転事業の企画立案に携わった実績をもとに、医学部・琉大病院の移転後の診療・教育・研究体制を一層強化し、沖縄県の健康医療の中核としての役割を確固たるものとします。さらに、県および市当局との連携により、交通インフラの整備による渋滞緩和、ならびに快適な職場環境の創出に注力し、教職員の労働環境の向上を図ります。
人材	1. イノベーションによる貢献：「知の創造」からイノベーションを生み出す体制を整備します。大学内に埋もれる知識や技術を知的財産化し、企業との共同研究および産学官金連携活動を強化し、地域産業経済への貢献を推進します。県内外の企業と大学の共同研究や沖縄県への企業誘致による地域振興、大学ファンドの設立、大学発ベンチャー育成への取り組みを強化します。 2. 地域連携プロジェクトによる貢献：県内外の企業、行政や団体と提携し、実際のビジネス課題、医療課題や沖縄固有の社会課題に取り組むプロジェクトやセミナーの提供を強化します。学生や教員は社会人のメンターと共に働き、理論と実践を組み合わせて学びます。これにより、学生は実践的なスキルを身につけ、地域の企業や団体も新しい視点や解決策を得ることができます。 3. 生涯学習・リカレント教育：県内の社会人や高齢者向けに、人文科学、自然科学の両分野において、文化、芸術の理解と実践的スキルを学ぶ短期コースの提供を拡充します。この取り組みにより、高齢化社会を迎えている沖縄県において、人材の高度化と生きる喜びの創出に寄与し、本学と地域社会との連携を強化します。
経営	1. 大学のダイバーシティー推進：女性および外国人教職員の登用を積極的に推進し、多様性に富んだ学術環境の醸成に努めます。さらに、沖縄県における唯一の総合大学としてアジア太平洋地域の諸大学との実質的な連携を深化させます。この取り組みにより、本学はアジア太平洋地域の「知の創造拠点」としての地位の確立を目指します。 2. 若手教員の活躍できる環境の整備：人事制度や予算配分を工夫し、若手教員のサポート体制の整備や着任後の研究環境を充実させる支援制度を強化します。
琉球大学が沖縄県の発展に貢献し、アジア太平洋地域で輝ける大学となることを目指して私の所信表明とします。	
国立大学法人琉球大学学長選考細則第 6 条の規定に基づき提出いたします。また、この様式の内容が公表されても差し支えありません。	
令和 6 年 1 0 月 2 0 日 氏 名 松下 正之	

